

西之内町地車新調 実行委員会通信

2021年
8月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
0724447712

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介（4）

名残の暑さはなおもとどまつて、西之内町の皆様におかれましては体調を崩されないようにお気をつけください。

今回も新調地車の彫り物の場面について少しご紹介します。難波戦記の物語の中、真田幸村と同じく人気のある、薄田隼人兼相という武将の場面です。

ここで、薄田隼人正兼相について紹介します。出生はよくわかつておらず、記録として名前が出てくるのは秀吉の馬廻り衆として三〇〇〇石を領した時です。（後に五〇〇〇石に増加）。また、慶長十六年の禁裏御普請衆としても名が残っています。

大阪市西淀川区野里に鎮座する住吉神社には、薄田隼人正兼相に関する伝承が残されています。この土地は毎年のように風水害に見舞われ、流行する悪疫に村民は長年苦しめられておりました。悩んだ村民は

古老に対策を求め、占いにより「毎年、定められた日に娘を辛櫛に入れ、神社に放置しない」という言葉に従い、六年間そのように続けておりました。次年にも同様の準備をしている時に薄田隼人正兼相が通りがかり、「神は人を救うもので犠牲にするものではない」と言い、自らが辛櫛の中に入つて娘の代わりとなります。翌朝、村人が状況を確認しに向かうと辛櫛から血痕が点々と隣村まで続いており、そこには人間の女性を攫うとされる大きな狒々が死んでいました。同様な伝承は日本の各地に存在しており、薄田隼人正兼相は講談や伝記物語で人気の高い岩見重太郎と同一視されております。岩見重太郎の狒々退治は、上松町地車の正面土呂幕に見事に刻まれております。

新調地車の彫刻では、この場面の背景にもひと工夫を施しています。



薄田隼人正兼相 誉田の合戦

武者絵

こちらの場面が最も作用されております

踏んだ豊臣軍が、道明寺付近で後藤又兵衛隊の後を追つて徳川軍と激突するもので、決死の覚悟の合戦であつたことが伺えます。

新調地車の彫刻では、この場面の背景にもひと工夫を施します。

おり、一味違つた薄田隼人正兼相が見られることでしょう。から読み取つた物を表現してまた、甲冑や武具は、難波戦記

ております。道明寺、道明寺天満宮のうち有名な史跡を彫刻の一部として刻んでおります。

新調地車の彫り物

進捗報告

一つの刻み作業は、見学している委員会のメンバーも肩の凝る作業です。

大連子三面は、刻みの作業に順次入っており、武者以外に松、紅葉の仕上げ作業を手掛けております。左上の写真は、合戦の場所に長く存在している木々で、約一五〇年の歴史があります。それを、合戦の場面の一部背景に取り入れております。

縁葛の仕上げの作業は、順次進められており、正面縁葛、平右縁葛の刻み作業にとりかかっております。縁葛の部分は小さな彫り物が多く、一カスミまでの荒彫りは完了しておらず、平土呂幕の奥板に取り掛っています。

小連子正面は、刻み作業まで完了し、平の二面が素削り段階待ちです。

見送り下連子の彫刻は、今回の新調地車の中でも特別な役割を持つていてる部分であり、ようやく仕上げ作業も完了しました。山本師もこの部分を手掛けたうえで、特に気を使われたことと思われます。



長くその場所で様々な歴史を見た特別な樹木（未完成品です）



土呂幕前板の作成状況（山本師）

後のスケジュール調整、予算調整を行っております。限られた時間と予算の中で、町内の方々に満足いただける地車新調を基本理念に、委員は知恵を絞っています。

議題などは、若頭西風会を中心に青年団、貳拾五人組の意見や考えを取りまとめて、世話人会、参与会の承認を経て部長を含む部会全体で進めております。しかし、コロナ禍で大人数での会議開催ができないおらず、部門間の調整に苦慮するところであります。

その状況下で部門間の意見交換を綿密に行い、今後のイベントを調整しております。来年は現地車の昇魂式を控えており、これから総務部員が忙しくなります。また、制作部も地車の完成時期がいつになるかといったことを総務部、財務部と連携して入魂式の準備に取掛ることとなります。

若い者の意見に耳を傾けていただける世話人会並びに上位団体の委員の方々に感謝しつつ、基本理念を見失わないよう、一つ一つ課題を解決してまいります。ご支援とご協力をよろしくお願い申上げます。

検索

